

アンケート調査の結果では、生徒の在籍する府立高校への満足度は約 86%、不満足度は約 14%であった。生徒たちが不満に感じている理由としては、「授業」や「校風・教育方針」、「学校の施設」が上位であった。高校に対する不満足の数値や思いは様々であると考えられるが、本府教育の基本理念をもとに、生徒一人一人に寄り添い、それぞれの生徒が抱える課題の解消に努めなければならない。

また、在籍する府立高校の魅力と感じている点としては、全日制課程では、「部活動や文化祭、体育祭、研修旅行等の学校行事の充実」、「大学等への進学や就職に向けた指導の充実」、定時制課程では、「全日制よりゆったり学べる」、「少人数授業や補習などの学習指導の充実」など、日々の様々な教育活動に関わる事項が上位であった。

■調査時期 令和3年7月12日（月）から20日（火）まで
 ■調査対象 府立高校全日制・定時制課程の第1学年及び第1年次生徒 [任意調査]
 ■回収結果

課 程	対象生徒数	回 答 者 数	回 答 率
全 日 制	9,366	5,098	54.4%
定時制（夜間）	77	37	48.1%
定時制（昼間）	210	194	92.4%
合 計	9,653	5,329	55.2%

現在の進路選択（在籍している高校）について、あなたは満足していますか。（1つ選択）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

【全日制】普通科 43.0% 42.7% 10.4% 3.8%

【全日制】その他の専門学科 47.2% 42.8% 7.2% 2.8%

【全日制】職業学科・総合学科 46.0% 41.0% 10.4% 2.6%

【定時制】夜間 58.8% 23.5% 8.8% 8.8%

【定時制】昼間 39.9% 44.0% 11.4% 4.7%

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満

在籍校に対する満足度×満足度の理由【全日制・定時制計】

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

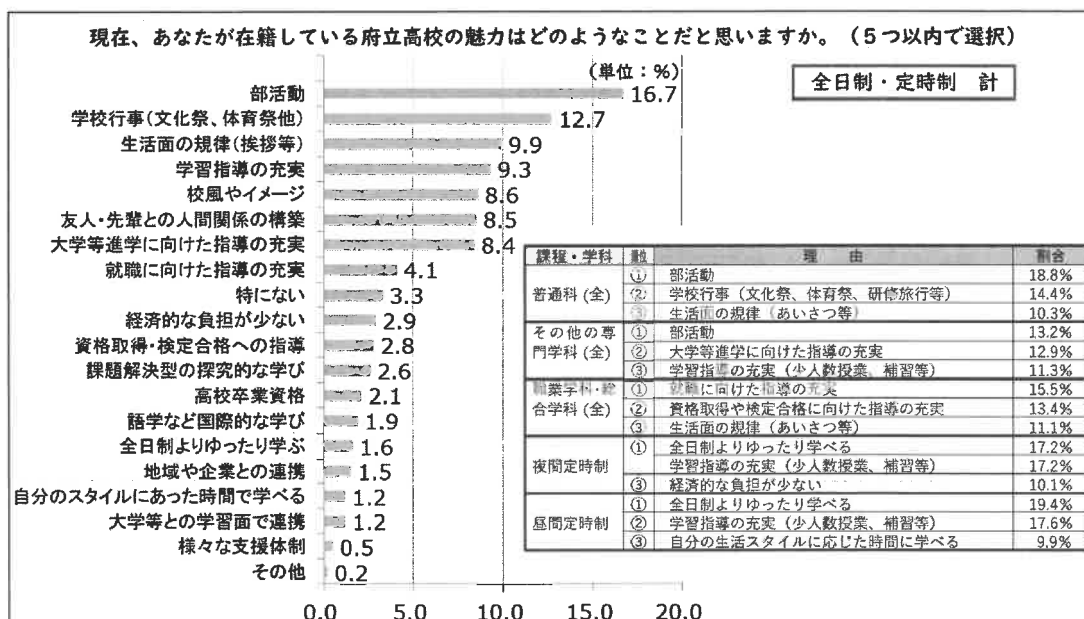
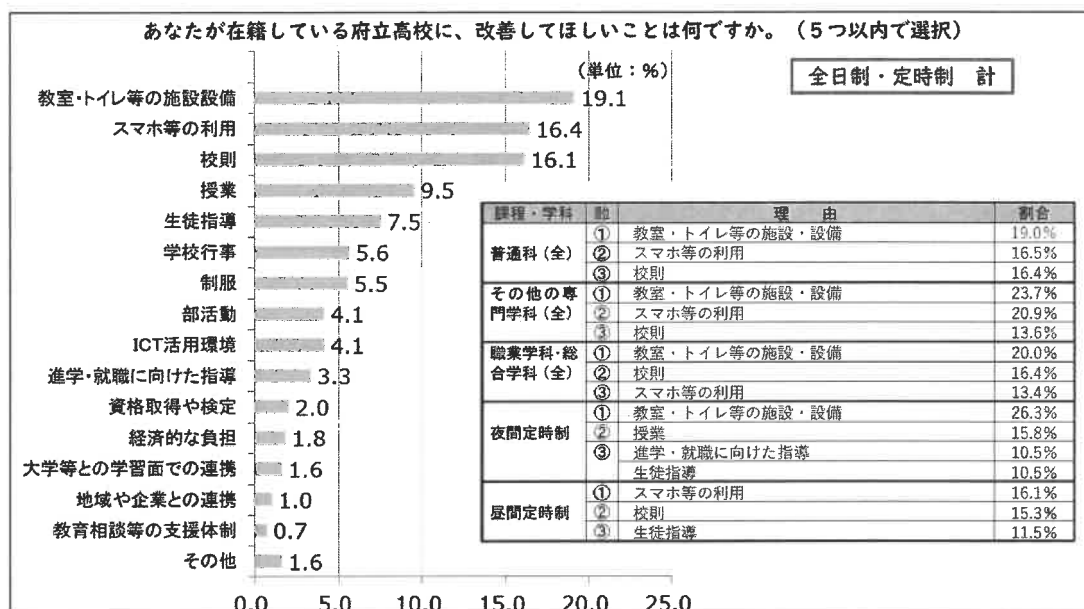
満足・どちらかといえば満足 ②授業 ③部活動 ①友人や先輩との関係 0.3%

20.6% 8.1% 7.7% 8.1% 8.3% 19.5% 23.6% 3.8%

①授業 ②校風や教育方針 ③学校の施設

不満・どちらかといえば不満 20.2% 16.9% 13.3% 10.7% 8.1% 8.7% 9.5% 8.1% 4.5%

■授業 ■校風や教育方針 ■学校の施設・設備 ■通学時間 ■学校行事 ■部活動 ■友人や先輩との関係 ■先生との関係 ■その他



【魅力を高めるための視点】

今後の府立高校の在り方においては、生徒たちが、自らが目指す進路を実現できる学力や資格などを身につけられる学習指導と、部活動や学校行事などの教育活動がバランス良く充実していること、また、高校生活を通じた豊かな人間関係づくりを求めていることを踏まえ、現在の各高校の良いところは継続しつつ、さらに各高校の魅力を高め、府立高校としての役割をしっかりと果たせるよう、以下の視点に立って取組を進めていく。

○一人一人の生徒の個性や能力を最大限に伸ばせるよう、時代の変化を踏まえた学習内容や学習方法などの充実を図ること。(Ⅱ－Ⅰ(2))

○府立高校の強みである地域との強い結びつきや、スケールメリットなどを活かしてすべての府立高校の魅力化を図ること。(Ⅱ－Ⅰ(3)(4)(5))

○新しい時代の豊かな学びに応えられるよう、教員の資質向上や体制の整備、施設設備等の教育環境の充実を図ること。(Ⅱ－Ⅰ(6)(7))

○学科の在り方を含めて、各高校の特色をよりわかりやすく見えるようにすること。
(Ⅱ－Ⅰ(8)・Ⅱ－2)

○生徒の多様なニーズに対応した学びの環境を保障すること。(Ⅱ－3)

○魅力ある府立高校づくりを進めていくため、府立高校の再編整備や入学者選抜制度、学科の在り方など、必要となる教育制度等の改革に向けて検討すること。
(Ⅲ)

Ⅱ 魅力ある府立高校づくり

Ⅰ 府立高校における魅力的な学びの充実

(Ⅰ) スクール・ミッションの再定義

各高校では、「校訓」や「教育方針」などを踏まえた教育課程を編成し、自校が育成を目指す生徒の資質能力、生徒募集にあたっての求める生徒像を示しているが、校内外への共有や浸透が不十分であるとの意見もある。

国の高校教育改革においてスクール・ミッションの再定義やスクール・ポリシーの策定が提示された趣旨を踏まえ、府教育委員会として、各高校が育成を目指す生徒の資質能力を具体的にわかりやすく示し、各高校の存在意義や期待されている社会的役割、目指すべき学校像を明確化する必要がある。その上で、各高校にはスクール・ミッションに基づくスクール・ポリシーの策定を求めていく。

また、府教育委員会が再定義するスクール・ミッションと、各高校が策定するスクール・ポリシーを効果的に運用するために、PDCAサイクルの活用や、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）などを通じた地域社会との連携、協力体制の構築などについても検討する必要がある。

【目指す方向性】

① 府立高校ならではのスクール・ミッションの再定義

- ・令和４年度中を目途に、府立高校ならではの強みを活かしたスクール・ミッションの再定義を行う。
- ・一定の類型化を図るなど、府民にわかりやすいものとなるよう工夫する。

(Ⅱ) 新しい時代に応じた探究的な学びや学習スタイルの構築

先行きが見通しにくい予測困難な時代を迎える中、高校教育においては、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得するとともに、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができる教育活動の展開が求められる。

そのため、生徒一人一人の興味・関心や能力・適性等に応じて、それぞれの可能性を最大限に引き出せるよう、ICTを効果的に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを実現する必要がある。

また、新高等学校学習指導要領においては、改訂前の「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」へと変更され、探究の見方・考え方を働かせて、教科・科

目等の枠を超えた学習を行うことが求められている。さらに、各教科・科目の学習においても、探究的な活動を取り入れることが重要であるとされている。

従って、探究的な学びや教科等横断的な学びを推進すること、またそのための環境を整備することが必要である。

【目指す方向性】

① 探究的な学びや教科等横断的な学びの充実

- ・課題解決型の探究的な学びや、文系・理系という枠組みにとらわれない教科等横断的な学習（STEAM教育）を推進し、幅広い分野で新しい価値を提供できる人材を育成する。

② 生徒1人1台端末を導入した新たな学びの推進

- ・学習用端末（タブレット）の生徒1人1台の導入をはじめとするICT教育環境の整備・充実により、個別最適な学びと主体的・協働的な学びを推進する。

③ ハイブリッド型の新たな学習スタイルの構築

- ・オンライン教育と対面式教育を組み合わせたハイブリッド型の教育形態により、生徒が自らの学習進度や興味・関心等に応じて学べるようにするなど、新たな学習スタイルを構築する。

④ 情報活用能力の育成

- ・デジタルトランスフォーメーションの進展を見据え、ICTの活用等を通じて、情報を収集・整理・発信する力など、よりよい未来社会を切り拓くために必要な能力を育成する。

(3) 地域や企業、高等教育機関・研究機関等との連携強化

高校は、生徒の進路実現を図る教育機関であるだけでなく、地域の知の拠点でもあり、地域の活性化など地域創生の核として寄与する社会的役割も果たしている。

引き続き、各地域の実情等に基づき、地域や企業、大学等の高等教育機関、研究機関等と連携・協働した、特色・魅力ある教育活動を展開することが求められる。

さらには、コミュニティ・スクールの導入並びに各高校における様々な教育活動を通して、生徒に地域の一員としての自覚や必要な資質を養い、地域課題に興味・関心を持って、課題解決に向けて主体的に参画しようとする仕組みを構築し、地域とともにある開かれた府立高校づくりを推進する必要がある。

既に北部地域の一部の市町においては、域内に設置されている府立高校の教育活動に対する企画提案や高校の魅力の発信、高校と地域との連携に関わる支援などを担うコーディネーターを配置していただいている。今後は、地域の実情を踏まえつつ、こうした地域社会への参画や協力を得る仕組みを通じて、高校を取り巻く関係

者間に当事者意識が醸成され、共有されることが望まれる。

また、数多くの大学等の高等教育機関や研究機関、地域に根ざした企業等が存在するといった本府ならではの強みを活かすとともに、文部科学省の指定による「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」における、単位認定を見据えた大学教育の先取り履修や、大学教員の特別講義による共通履修科目（スマートAP）といった取組成果なども踏まえ、高校と大学等との接続を柔軟に捉えて、教育上の連携を一層強化していくことが重要である。

【目指す方向性】

① 地域とのつながりを活かした教育活動の推進

- ・市町村や小・中学校のふるさと学習等との連携、地域の教育資源を活用した学習、地域課題に関わる探究的な学びなど、地域貢献や地域への愛着を深める取組を推進する。
- ・市町村との相互連携を進め、高校生と地域の架け橋となるコーディネーターの配置など、地域と高校の結びつきを強める取組を充実させる。

② 企業等との連携による職業教育の充実

- ・企業や市町村など産官学による連携強化により、職業学科の学びをより充実・深化させ、即戦力として活躍できる若手プロフェッショナルの育成を目指す。

③ 高等教育機関等との連携・接続の強化

- ・府内の大学への興味・関心を喚起するとともに、大学や専修学校、研究機関等との連携を強化し、探究する力が身につくように、一貫した授業カリキュラムの構築や生徒が最先端の研究や高度な探究学習に触れる機会を充実させる。
- ・大学教育の先取り履修による単位認定や高校卒業後の接続に係る仕組みづくり等について協議・検討を進める。

(4) スケールメリットを活かした学習環境の向上

府立高校には、生徒の幅広いニーズに対応する多様な特色ある課程・学科・コース等があり、スケールメリットを活かした教育活動を展開できることに強みがある。

授業のみならず、府立高校生の多くが魅力に感じている部活動等の教育活動も含めて、単独の高校では難しい取組を拡大し、学校・課程・学科間等での相互連携や交流を充実させることで、府立高校全体の魅力や学習環境の向上を図る必要がある。

また、文部科学省の指定による「スーパーサイエンスハイスクール」、「スーパーグローバルハイスクール」、「WWL コンソーシアム構築支援事業」等により、府内外の高校間や大学、企業等と連携して取組を進めてきた成果もある。ICTの活用等により、府立高校間の枠を越えた連携へと一層の拡大を図る必要がある。

【目指す方向性】

① ICTの活用等による学校間連携の強化

- ・各教科の授業や探究的な学習の時間などでの学びの深化を図るため、ICTの遠隔機能も活用した学校間連携を強化する。
- ・生徒の興味・関心や希望進路に応じて、学科を越えた科目選択や、他校の講座を遠隔授業で受講するなど、学校の枠を越えた幅広い教育資源が活用できる柔軟な教育課程を検討し、学びの選択肢を拡充する。
- ・各高校の実情や生徒のニーズ、地理的要件などを踏まえながら、部活動等における学校間連携を検討する。

② 課程間の連携による教科・科目等履修制度の構築

- ・定通併修など異なる課程間での教科・科目等履修制度を検討する。

③ 府立高校内留学の仕組みづくり

- ・在籍校や地域を越えた生徒間交流によって、生徒の可能性を最大限伸ばすため、府立高校間で短期的に留学できる仕組みづくりを検討する。

(5) グローバル人材の育成

グローバル化が一層進展する中で、地域や日本の文化・歴史等について理解を深め、生徒が自分の考えを世界に発信できる力を身につけることができるように、多様な価値観や文化を受け入れ、理解しようとする態度を育成することが求められる。

また、日本が抱える社会問題や地球規模の課題等について、グローバルな視野を持ち、国際的に活躍できる人材を育成することも重要である。府内には世界に誇る伝統や文化が息づいており、豊かな教育資源に恵まれ、高校生の留学率が全国的にみて高い状況にあるなど、世界とつながる、世界に目を向ける教育活動を積み重ねてきた実績もある。さらに、これまでから課題研究等においても、生徒が英語によるグループワークやプレゼンテーションを行ったり、国外の学校と対面やオンラインで交流を行うなどの取組を行ってきた。

これらの京都府ならではの土壌や特長、実績を活かし、時代の変化に応じたグローバル人材の育成を推進していくことが求められる。

【目指す方向性】

① グローバルな視野で探究する学びの充実

- ・地域や日本の伝統・文化等への理解を深め、異文化を理解する力やコミュニケーション能力が身につくように、外部人材を活用した体験活動や地球規模の課題等に関する探究的な学びを充実させる。

② 世界とつながる多様な留学機会の充実

- ・バーチャル留学とリアル留学を組み合わせたハイブリッドな留学プログラムにより、世界の学びに触れることができる機会を拡充する。
- ・府内に在留する外国人等との交流や、オンラインによる海外の学校・企業との交流など、多様な価値観や文化に触れる機会を充実させる。

③ 国際的に通用する高度なコミュニケーション能力等の育成

- ・国際的に通用する論理的思考力やコミュニケーション能力を持ったリーダー人材の育成を目指し、府立高校や府立中学校での国際バカロレア認定校の導入や教育システムの活用に向けて、現状課題の検証を行い、検討を進める。

(6) 教員の資質能力の向上と学校体制・指導体制の充実

新しい時代の学びに対応する生徒一人一人に応じたきめ細かな指導を行うため、教員が主体的・継続的に新しい知識や技能を学び続けることができるよう適切な支援を行うとともに、府立高校間での教員交流や連携を通じた資質能力の向上、教員以外の専門スタッフの配置や外部人材の活用、働き方改革の推進など、学校体制・指導体制の充実を図る。

また、教育活動の質を高めるために重要となる校長の教育的リーダーシップが十分に発揮されるための環境を整備することも必要である。

【目指す方向性】

① 教員研修の質の向上や教員間の交流・連携の推進

- ・経験や職種に応じた系統的かつ体系的な研修計画や大学や企業等と連携した研修講座の充実、ICT機器を活用した授業実践講座の実施など、効果的な研修の実施により、教員研修の質の向上を図る。
- ・府立高校教員の地域や学科・課程、専門教科や経験年数等の枠を越えた交流や対話などを通して資質能力の向上を図る。

② 専門的スタッフの配置や外部人材の活用の推進

- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、ICT教育支援員など、専門的スタッフの配置を進める。
- ・スクール・サポート・スタッフや部活動指導員の配置など、外部人材の活用を推進する。

③ 管理職のリーダーシップが発揮される環境整備

- ・校長が自らの教育理念に基づき、特色ある教育活動を推進することができるよう、校長の同一校における在職期間の長期化を図るなど、人事異動の在り方を検討する。

④ 学校における働き方改革の推進

- ・抜本的な業務削減を進めるとともに、ＩＣＴ環境の整備によって仕事の効率化や個別最適な学びの充実に向けた支援に努める。

(7) 学びを支える教育環境の充実

学校教育に必要な機能や安全かつ快適な教育環境を確保するため、老朽化が進んでいる施設・設備等については、計画的に整備・更新を行う必要がある。

アンケート調査の結果においても、生徒の多くが学校施設・設備の改善を望んでいることが顕在化した。財源等の問題はあるものの、「京都府教育施設個別施設計画」に基づく計画的な整備を進めるとともに、教育のデジタル化による新時代の学び、地域産業を支える職業教育等の充実や特別な支援を要する生徒の増加状況などといった中長期的なニーズや課題を見据えて、魅力ある学びを支える環境の整備が必要である。

【目指す方向性】

① 新たな学びを支えるＩＣＴ教育環境の充実

- ・個別最適な学びの実現に向け、ハードとソフト両面でのＩＣＴ教育環境の整備を進める。
- ・生徒１人１台の学習者用端末（タブレット）の導入に伴う購入支援制度の充実を図る。

② 地域産業を支える職業学科の教育環境の充実

- ・地域産業を支える人材育成に向け、職業学科設置校における産業教育設備の整備・更新や、地元企業等の施設設備を実習等の学びの場として活用すること、寮の再整備などを進める。
- ・特色ある教育内容等により、府外からも積極的に生徒を募集（全国募集）する。

③ 多様な生徒の学習ニーズに対応できる教育環境の充実

- ・多様な入学動機や希望進路、学習経験等といった様々な背景のある生徒や特別な支援を要する生徒など、多様な生徒の学習ニーズに対応した学びの充実に向け、府立学校（高校、特別支援学校）における教育環境の整備を推進する。

(8) 発信力の強化

府立高校を取り巻く地域とのつながりを大切にし、日頃から地域と連携した府立高校づくりに努めるとともに、求められる情報を生徒・保護者、中学校のみならず、広く府民に対しても発信し、高校の取組について知ってもらうことが大切である。

また、生徒募集においては、各高校の魅力や特色を正しく、効果的に中学生や保護者、中学校教員等に発信し、理解を深めてもらう必要がある。

子どもたちが早い段階から府立高校への興味や関心を高め、多様な選択肢の中から目的意識を持って高校を選択してくれるように、小・中学校との連携や高校生の活躍を発信する機会を積極的に設けるとともに、発信方法の工夫を図ることが重要である。

こうした取組を続けることで、小・中学校におけるキャリア教育の充実にもつなげ、児童生徒や保護者にとって、主体的な高校選択となることが望まれる。

【目指す方向性】

① 中学校等との相互交流、連携の強化

- ・ 公立同士の強みを活かして、小・中学校教員と高校教員による授業見学等の相互交流を一層促進するとともに、府立高校と地域の市町(組合)教育委員会との連携の充実を図る。

② 府立高校の情報や魅力の効果的な発信

- ・ 情報や魅力発信については、ホームページやオープンスクールなど従来の取組だけでなく、部活動や職業学科などのリアルな魅力を伝える学校説明会・体験等の充実、校風やイメージを効果的に伝える紹介動画等の活用を推進する。
- ・ 府立高校生の活躍する姿を積極的に発信するため、高校生と小・中学生との交流活動や、テレビ等マスメディアの積極的な活用を進める。
- ・ 広域的で効果的な情報発信のため、府教育委員会のホームページやスクールガイドなどの内容の見直しを図る。

2 学科の特色化・魅力化の推進

(1) 魅力のある新しい普通教育の推進

これまでから、普通科においては特色あるコースを、普通科系専門学科においては教科等を横断的に学ぶ学校設定教科・科目の設置や最先端の研究に触れる機会を設けるなど、魅力ある学びを実現し、大学等進学や就職など生徒の多様な希望進路の実現に応えてきた。

また、以前の類・類型制度の発展的解消を行った後も旧第Ⅲ類の設置目的を念頭に、特定の教科・科目の履修に重点を置き、生徒の個性の伸長等を図る教育課程を設定する普通科スポーツ総合専攻と美術・工芸専攻も設けている。

加えて、様々な名称の普通科系専門学科も多くの高校に設けているが、こうした普通科教育等に関する多様な特色内容が、複雑でわかりにくいという声や、進学先の判断として学科より学校の特色で選んでいるといった声がある。

一方、国の普通科改革においては、特色化や多様なニーズへの対応として、学際領域に関するものや地域社会に関するものなどが、新しい普通教育を主とする学科として示されたところだが、これらの学科については、従来の普通科等で既に取り組んでいる内容も多く、その違いがわかりにくい側面がある一方で、現在の高校の特色を、名称も含めわかりやすく発信できるというメリットもある。

これらのことを踏まえ、魅力のある新しい普通教育を目指して、現在設置している普通科や普通科系専門学科の在り方について検討する必要がある。

【目指す方向性】

① 普通教育における魅力の向上

- ・これまで培われた教育内容を深化させつつ、社会の変化に対応した魅力のある新しい普通教育の推進に向け、学科やコースの名称の整理、新たな学科への再編などについて検討を進める。

② 普通科、普通科系専門学科の在り方の検討

- ・普通科と普通科系専門学科が併設されている高校においては、改めてそれぞれの学科の教育内容等を検証し、学科の在り方を検討する。

③ 効果的な情報発信

- ・各高校の学科やコース等での学びの魅力や特色について、中学生や保護者等への効果的な情報発信を図る。

(2) 質の高い職業教育と総合学科における学びの充実

地域の持続的な成長を支える最先端の職業人育成を担っていくために、最前線にある地域の産業界で直接的に学ぶことができるよう、産業界と高校が一体となった質の高い専門教育を推進していく必要がある。

近年、急速な技術革新、産業構造や就業形態の変化、グローバル化など、社会経済状況が大きく変化しており、新しい時代における社会的要請や実際の社会で求められる資質能力に対応した職業教育を進める必要がある。

特に、職業学科においては、即戦力として地域産業を支える人材の育成にとどまらず、高等教育機関等と連携した学びを深めてスペシャリストとなる人材の育成など、より質の高い職業教育を展開していくことが重要である。

また、総合学科においては、原則として1年次に学校設定科目「産業社会と人間」を履修することや、多様な科目から系列等に応じた科目を選択することが可能であることから、生徒の様々なキャリアデザインに応じていくことが求められるため、高等教育機関との連携や外部の専門人材の活用などを一層充実させていく必要がある。

【目指す方向性】

① 高等教育機関等との高度な連携の推進

- ・若手スペシャリスト人材を育成するために、高等教育機関等と高校3年間の学びを超えた高度な連携を進める。
- ・総合学科における特色ある科目や教育活動の充実に向け、高等教育機関等との連携を進める。

② 企業や地域との連携の強化

- ・生徒が地元企業や実社会の状況を深く理解できるように、長期間にわたるインターンシップなど、企業等との連携を強化する。
- ・職業学科や総合学科における地域貢献の取組を支援するシステムを構築する。
- ・総合学科における開設科目の多様さという特色を生かした教育活動を充実させるため、外部人材や地域資源の活用を推進する。

③ 社会で求められる資質能力に対応した職業教育の充実

- ・学習意欲や目的意識の高い生徒が切磋琢磨できる環境を確保し、職業学科における学びの多様性と専門性を深めるため、学科やコースの名称の整理、新たな学科への再編などについて検討を進める。

④ 効果的な情報発信

- ・学科での学びの魅力や特色について、中学生や保護者等への効果的な情報発信を図る。

3 多様なニーズに対応した柔軟な教育システムの充実

(1) 定時制・通信制教育の充実

不登校経験がある生徒や特別な支援を要する生徒など、多様な生徒の学習ニーズに対応する学びの場として、京都フレックス学園構想に基づく柔軟な教育システムのさらなる充実を図るとともに、スポーツなど特定分野の活動等を中心としながら自分のペースに応じた高校生活を望むなど、生活スタイルや価値観等の多様化に対応した新たな教育環境の整備も必要である。

また、様々なメディアを利用した指導や自分のペースで学ぶことができるといった通信教育の特長を活かして、多様性のある学習機会や教育システムの構築など、新たな魅力のある府立高校づくりが求められる。

【目指す方向性】

① 個別最適な学びの充実

- ・ 定時制課程（昼間・夜間）に求められているニーズを検証し、個別最適な学びの機会を保障する。
- ・ 京都フレックス学園構想に基づく柔軟な教育システムや社会的自立に向けた支援をさらに充実させる。

② 異なる課程の併修による柔軟な教科・科目等履修制度の構築

- ・ 通信制課程と定時制課程・全日制課程との併修など、生徒の学習ニーズと課程の特長を活かした、柔軟な教科・科目等履修制度を検討する。

③ 新しい学習スタイルの通信制課程の設置

- ・ ICTを活用したオンライン授業と通学による対面指導を組み合わせた、これまでの枠にとらわれないハイブリッド型の新しい通信制課程を検討する。

④ 多様なニーズに応じた教育的支援の充実

- ・ 一人一人の生徒の教育的ニーズや生活スタイル等に応じた個別最適な学びを支援するため、特別支援教育の専門性を持つ教員やスクールカウンセラーの配置、ICTの活用による学習支援等を充実させる。

⑤ 効果的な情報発信

- ・ 各高校の学びの魅力や特色について、中学生や保護者等への効果的な情報発信を図る。

(2) 全日制課程における柔軟な教育システムの構築

義務教育段階で個性や能力が十分に発揮できていなかった生徒や、不登校等の理由で中学校から高校への接続が難しい生徒、基礎的・基本的な学力の定着が必要な生徒など、全日制課程に在籍する生徒も複雑化・多様化している。

また、全日制課程に入学後、学習ニーズや生活スタイル等とマッチングせず、定時制課程や通信制課程等へ進路変更する生徒も存在している。特に、生徒の不登校や中途退学等に対しては、市町村や中学校、福祉機関との連携や、専門人材によるネットワークの活用など、組織的な対応や連携が重要である。

生徒の学び直しや新たな学校生活への挑戦等に対して、学習意欲を高め、主体的に学びに向かえるように支援する工夫が求められている。

【目指す方向性】

① 基礎的・基本的な学力の確実な定着に向けた柔軟な教育システムの構築

- ・卒業までに修得させる単位数の見直しや、オンライン活用による授業・課題提出等による科目の履修（認定）に関わる条件の弾力化等について研究し、学び直しの機会や基礎学力等の確実な定着を保障する、安心して学べる柔軟な教育システムの構築に向けて検討する。

② 個性や才能を伸ばす柔軟な学習スタイルの構築

- ・生徒が自身の個性や特定分野の特異な才能を伸ばすことなどを中心にしながら、高校生活を送ることができる柔軟な学習スタイルの構築に向けて検討する。

③ 普通科と専門学科の併設等を活かした魅力づくり

- ・普通科と専門学科の併修や学科の異動を可能にするなど、府立高校の強みを活かした魅力ある高校づくりを検討する。
- ・キャリア教育の視点を強化し、社会人基礎力（基本的生活習慣、自己表現力、対人関係スキル、基礎体力など）の育成を重点的に実践する高校など特色ある高校の在り方を検討する。

(3) 特別支援教育の充実

義務教育段階における特別支援教育の推進や特別な支援を要する児童生徒の増加を踏まえ、府立高校におけるインクルーシブ教育システムの構築に向け、通級による指導の充実や特別な支援を要する生徒と共に学ぶ新たな仕組みづくりが求められている。

共生社会の進展に向けて、障害や特性の有無に関わらず、全ての生徒がお互いを尊重し合い、協働する教育活動を通じて、生徒がそれぞれの自己実現を図ることができるよう、特別支援学校等と連携し、自立と社会参加に向けた学びの場を提供していく必要がある。

【目指す方向性】

① 特別支援学校高等部と連携したインクルーシブ教育の環境の整備

- ・特別支援学校高等部を府立高校に併設するなど、障害の実態等に応じた指導や、同世代の生徒による共同学習や共通の課外活動等が実施できる府立高校ならではの環境整備を進める。

② 高校における特別支援教育の推進

- ・府立高校への特別支援学校教員の配置や、府立高校と府立特別支援学校との連携により、障害の実態や程度に応じた高校教育と特別支援教育との複合的な教育システムや特別支援学級の設置などを検討するとともに、府立高校における教員の専門性の向上を図る。

③ 通級による指導の充実

- ・小・中学校から高校、高校から高等教育機関や企業等へと、必要な支援を途切れることなく確実に移行するシステムの構築に向けて、地域の通級拠点校に対象生徒が通う他校通級方式や、特別支援学校（地域支援センター）教員による巡回指導方式を取り入れるなど、通級による指導の充実を図る。

Ⅲ 魅力ある府立高校づくりに向けた教育制度等の改革

Ⅰ 地域の実情等を踏まえた府立高校の在り方の検討

高校教育においては、教育活動全般にわたり、生徒が集団の中で多様な考えに触れ、切磋琢磨することを通じて資質能力を育むために、一定規模の生徒集団による教育環境を整備することが求められるが、地域の実情や生徒の実態に即した指導などを行うにあたって、小規模校や小さな集団による学びの形態が望ましい場合もある。

また、社会情勢や時代の変化に応じた多様な学習ニーズへの対応や各地域の将来を支える人材の育成、地域社会の活性化への貢献など、地域創生の核となる府立高校の社会的役割への期待にも応えていく必要がある。

府教育委員会においては、平成 27 年度に「生徒減少期における府立高校の在り方検討会議」を設置し、府立高校の今後の在り方や活性化策について広く御意見をいただくとともに、地域別の懇談会を設置するなどして議論を重ね、その結果、令和 2 年度から丹後地域において学舎制の導入や京都フレックス学園構想に基づく新しい高校の設置といった再編を実施したところである。

学舎制は、多様な教育課程を編成し、将来の地域を支える人材を育成するといった高校の役割を果たすため、一定の生徒数、教職員数を維持するとともに、通学の利便性に配慮して、既設校の校舎を活用することを方針として導入し、ICTを活用した遠隔教育や合同部活動など、学舎間で連携した教育活動を展開している。

こうしたこれまでの成果も踏まえつつ、生徒にとって魅力と活力ある教育環境をどのように提供することができるかという視点とともに、高校が地域において果たしている社会的・教育的役割、生徒の通学の利便性や地域の実情等を踏まえて、今後の府立高校全体における、学校や課程・学科等の在り方を検討していく。

【目指す方向性】

① 魅力ある府立高校づくりに向けた再編整備の検討

- ・府立高校の再編については、生徒数の減少のみに着目した一律的・機械的な基準は設けないことを前提としつつ、地域の実情等を考慮しながら検討する。例えば、交通の利便性が高く、選択できる高校の多い地域については、一定規模の教育環境の確保や、学科等の選択肢をバランス良く配置するといった視点からの再編も検討する。
- ・生徒の学習ニーズ等にしっかりと応えられるよう、柔軟な教育システムの充実、ICTを活用した新たな学びの推進等を図るため、定時制・通信制課程の再編や再配置を検討する。

② 魅力ある高校づくりに資する学科再編の検討

- ・中学生の高校選択におけるニーズや、大学等への進学志向が高いといった府立高校の実情等も踏まえ、各高校に設置している学科の教育目標や教育内容などをわかりやすく整理する。

③ 魅力ある学びを活性化するための環境整備

- ・地域産業に関わる職業学科や部活動など、高校の魅力に応じて府内他地域や全国から積極的に生徒を募集できる制度や寮などの施設の整備を進める。

2 社会情勢等の変化に対応した入学者選抜の在り方の検討

社会情勢や中学生・保護者の高校選択におけるニーズ等の変化を見極めながら、入学者選抜の実施時期・日程や学科等によって異なる選抜方法（内容）、新しい学習指導要領の実施に伴う選抜の内容の在り方など、現行の入学者選抜制度の課題を検証・整理し、よりよい制度となるよう、関係機関と連携しながら検討を進める。

【目指す方向性】

① 入学者選抜制度の検証、見直しに向けた検討

- ・中学生が目的意識を持ち、主体的に高校を選択できるよう、現行の入学者選抜における前期・中期・後期選抜並びに特別選抜や全国募集等の成果と課題を検証・整理し、関係機関と連携しながらよりよい制度となるよう検討する。

Ⅳ 魅力ある府立高校づくりに向けた今後の進め方

令和時代に対応した魅力ある府立高校づくりの実現に向けて、本ビジョンに基づき、府教育委員会として、令和4年度中を目途に府立高校の「スクール・ミッション」を策定したいと考えている。その上で、各高校において、高校教育の入口から出口までの教育活動について、

- ①入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）
- ②教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
- ③卒業の認定に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）

の3つのポリシー（スクール・ポリシー）として体系的に整理する。

また、本ビジョンで示した内容の具現化に向けて、令和4年度以降に具体的な検討に入るが、府教育委員会独自で進められる教育内容等の充実、見直しなどについては、次年度以降、関係課と調整しながら、計画的、かつ、できるだけ速やかに進めていく。

一方で、教育制度等の改革を含め、教育関係者や市町村、高等教育機関、企業等と協議しながら進めていくべきものや予算措置を伴うものなどについては、必要に応じて別途会議を立ち上げて検討する、あるいは、個別の実施計画を策定するなどして、進めていきたいと考えている。

こうした進め方により、多様な生徒一人一人を大切にし、すべての生徒が夢や希望を持ち、未来に向かっていきいきと学ぶことができる、魅力ある府立高校づくりを確実に進めていく。

